

-News Letter-

学会まで
165日

第1号発行

「医療ソーシャルワークの枠組みを再考する」

来年は15年ぶりに北海道での全国大会です。全国から多くの皆様のご参加をお待ちしております。

実行委員会では学会PR版としてNewsLetterを発行することいたしました。

学会プログラムの詳しいご紹介などを掲載します。月1回発行予定です。お楽しみに☆

学会の日程

日時：2017年6月2日（金）～4日（日）

場所：札幌プリンスホテル 国際館パミール

ホームページ <http://www.knt.co.jp/ec/2017/jaswhs/>

プログラム紹介Vol.①



「実習指導を通じた次世代養成と実践力形成」
(2017年6月3日土曜 13:30～)

札幌南青州病院 下倉 賢士(北海道札幌市)



「終末期医療における意思決定支援」
(2017年6月3日土曜 10:30～)

真栄病院 不動 宏平(北海道札幌市)

次世代の後継者はふってわいてくるものではない。診療報酬等への位置付け拡大がなされればなされるほど、後継者養成は、重要かつ喫緊な課題である。ここ10年の間で、病院や老健での実習を通じて、「保健医療分野でのソーシャルワーク」に触れ、魅力を体験した社会福祉士が現場に多く登場するようになってきた。しかし、その一方で、実習生の知識や技術のバラツキや、実践力養成に苦慮するとの声や課題もある。

ここ北海道では、より高い実践力を有する社会福祉士養成を志向し「相談援助実習」のシステム構築や標準化に養成校と協働で取り組んできた。養成校では、実習前にOSCE(客観的臨床能力試験)等の実習前評価システムを実施し実習適格性を確認し実習に送り出し、現場では、実習生に実践(面接やカンファレンス等)を試行的に体験させる。こうした実習プログラムやスーパービジョン例を盛り込んだ『保健医療機関における社会福祉実習マニュアル』を北海道協会として作成し、実習指導上の指針として実習契約書に位置づけている。

これらの北海道における取り組みを養成校、現場、学生から報告し、フロアと全体で、これからの養成教育・後継者養成のあり方やさらなる可能性について意見交換を行う場としたい。

近年の疾病構造及び社会構造の変化は、多様な価値や課題を生み、同時に我々ソーシャルワーカーにもいかにしてクライアントの尊厳や人権を擁護していくかという課題を投げかける。最近では、人生の最終段階において「その人らしい最後」を迎えるための意思決定の在り方について、活発的に議論されるようになってきた。これは、我々ソーシャルワーカーにも深く関連する一方で、「死」を連想させるテーマでもあることから、どこか敬遠しがちなテーマでもある。

当企画ではワールドカフェ方式を用いて「終末期医療におけるソーシャルワーカーの意思決定支援」について考えたい。ワールドカフェ方式とは「知識や知恵は、形式的な話し合いの場で生まれるのではなく、人々が自由な発想のもとで会話をを行い、かつ自由にネットワークを築くことのできる空間でこそ創発される」といった考えに基づく話し合いの手法である。具体的なテーマについては未定であるが、和やか雰囲気のもと各地域での現状や取り組み等に関して共有し、新たな知見や視点を養うことを目的にした。

私の学会の歩き方①



天使病院
沖 隆一(北海道札幌市)

全国大会では講演や演題、ワークショップなど様々なプログラムが組まれており、悩ましくもあり、それが醍醐味でもあります。少しでもご参考になれば私の学会の歩き方を紹介します。

初日は社員総会(北海道で参加できる貴重な機会です!)から参加し、開会式で気持ちを盛り上げます。そして、昨年私の胸を熱くしたドラマ「コウノドリ」のモデルとなった荻田先生の記念講演は、私の所属機関も周産期母子医療センターを備えている事もあり外せないです。

二日目は、MSWとして意識をしなければならない湯浅先生の講演「外から見たMSW」に引き続き、多分野で実践をされている高田先生の講演も聞き逃せません。また、日本協会でもSFAの研修会は開催されておりますがなかなか参加出来ないのので、この機会に少し学びたいと思います。そして全国の会員との交流会はもちろん参加です。

最終日は今学会のメインイベントとも言える二木先生の教育講演で締め、閉会式で三日間を振り返ります。



勤医協札幌病院
古田 陽介(北海道札幌市)

今学会で参加してみたいのは、いろいろありますがその中でも講演②の「地域包括ケア研究報告書における地域マネジメントをどう読み取るか」です。

MSWとして病院に配属されると概ね病床数にあわせてそれぞれの病院でMSWの配置数が決まってくると思います。

また、今後の地域医療構想の中ではより在院日数短縮化を求められますが現状では、入院してからの関わりでは限界を迎えつつあると思います。病院のMSWも地域の機関と協力して少なくとも自分が所属している機関の地域を知りマネジメントし入院する前からケースをつかんでいく必要があると考えています。このような取り組みができると病床数だけに影響を受けないようなMSW配置ということを組織へも訴えていける可能性があるのではないかと考えています。

その中で地域づくりを実践されている講義を聞き自分の今後を考える一助となればと考えています。